

あ  
な  
た  
と  
市  
政  
を  
む  
す  
び



広報  
No.193

# かんおんじ

2021 / 令和3年

# 11

November

香川県立ミュージアム展覧会 関連企画

## 特集 時にはキネマの話







香川県立ミュージアム 専門職員  
高木 理光さん (大野原町出身)

県立ミュージアムとしては、初めて映画館に関する展示を行います。当初は、当館で保管している映写機や資料を中心に展示しようと考えていましたが、調査するうちに県内全域の映画館についてもっと詳しく調べてみようと思いました。

私の祖父は映画が好きで、生前、山中座をはじめ、豊浜や観音寺の映画館に通っていた話をよく聞いていました。私が子どものころには近所に映画館はなく、「そんなに楽しかったのかな」と素朴な疑問がありました。映画館とは、どんなに面白いテーマパークなんだろうと。

みんなが映画館に集まってわいわい騒いだり、売店で果物やアイスクリームを食べたり…映画館のことを詳しく調べてみて、祖父の話していた楽しさが分かりました。

時代が移り変わり、今では映画館は少なくなりましたが、当時はこんな楽しさがあったのだと、その時代のまちの風景や人々に思いをはせながらご覧いただけたらと思います。



展示に向けて作業する様子

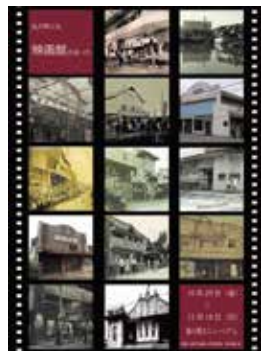
**県** 内初の新設の常設映画館は、大正元年（1912年）に高松市東瓦町に建てられた「緑館」です。大正時代には、都市部（高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市）で次々に映画館が誕生します。本市でも、この時代に琴弾劇場やライオン館が開館しました。

戦後、観音寺中心部・伊吹島・豊浜町は、県内でも人口密度が高い地域であり、狭いエリアに複数の映画館が存在しました。カラーテレビが普及し始めた昭和39年（1964年）を境に、映画館は減っていき、現在、市内に残っている映画館はありません。

※「香川新報」（大正11年8月2日）

### 香川県立ミュージアム 「私の町にも映画館があった」展 10月29日(金)～12月19日(日)

- 開館時間  
午前9時～午後5時  
(最終入館：午後4時30分、月曜休館)
- 入場料  
一般410円 (高校生以下、65歳以上、障害者手帳を持っている人は無料)
- 講座
  - ①学芸講座 (要予約)  
「香川県内の映画館史 (1898～1965)」  
日時 11月6日(土)午後1時30分～午後3時
  - ②ミュージアムトーク  
日時 11月27日(土)、12月12日(日)  
午後1時30分～(30分程度)
- 問い合わせ先  
同ミュージアム  
(高松市玉藻町5-5)  
☎087-822-0247  
📠087-822-0049



## 特集

# 香川県立ミュージアム展覧会 関連企画 時にはキネマの話を

10月29日より、香川県立ミュージアムで県内の映画館の歴史や魅力について紹介する展覧会「私の町にも映画館があった」が開催されます。戦前から観音寺市など県内都市部には約20の常設映画館があり、戦後には県内の約9割の市町村に映画館が存在しました。展覧会に合わせて、市内の映画館の歴史を関係者の皆さんのお話や資料からたどります。

1・2. 上市商店街入口や街角に掲示されていた映画館の看板 3. 「キング・コング」の映画上映時には、映画館の前に巨大な張りぼてが飾られた 4. 丸美屋映画館 表紙左から順に 5. 観音寺町内に掲示されていた映画看板 6. 上市商店街入口（通称「角の町」） 7. 琴弾館 8. 新映館（OS劇場）  
(1～5,8 細川正雄さん・泰男さん、6 観音寺市文化財保護協会、7 川上幸生さん提供)

\*【キネマ】キネマトグラフ (kinematograph) の略。映画、シネマの意味



五月山中座予定番組	
1日(木) 花嫁の巻 (前編) (新編)	24日(木) 花嫁の巻 (後編) (新編)
2日(金) 花嫁の巻 (前編) (新編)	25日(金) 花嫁の巻 (後編) (新編)
3日(土) 花嫁の巻 (前編) (新編)	26日(土) 花嫁の巻 (後編) (新編)
4日(日) 花嫁の巻 (前編) (新編)	27日(日) 花嫁の巻 (後編) (新編)
5日(月) 花嫁の巻 (前編) (新編)	28日(月) 花嫁の巻 (後編) (新編)
6日(火) 花嫁の巻 (前編) (新編)	29日(火) 花嫁の巻 (後編) (新編)
7日(水) 花嫁の巻 (前編) (新編)	30日(水) 花嫁の巻 (後編) (新編)
8日(木) 花嫁の巻 (前編) (新編)	31日(木) 花嫁の巻 (後編) (新編)



山中座の前で。右が映写技師だった合田さん (合田切さん提供)

## 大野原町 山中座

山中座や観音寺町内の映画館の番組表、当時三豊郡の各館で映画フィルムを交換していたスケジュール表など、貴重な資料を大切に保管していた石川さん。県立ミュージアムの展覧会にも資料を貸し出しています。ご自身も小学生のころから山中座に通っていたと話します。



山中座の前で友人と。左が石川さん (石川登さん提供)



石川 登さん (大野原町)

## 帰り道はまるでスターになった気分

**学**校帰りに「山中座」へよく行っていました。山中座の建物は中二階で木の椅子が1000席以上置かれていたのでしょうか。立ち見席もありました。映画は毎日上映しており、時々舞台上で芝居もしていました。山中座の近くには銭湯があり、映画を見た後は風呂に入って、近くの食堂でラーメンを食べて帰っていました。当時、映画は30円ほどです。映画のポスターを家の角に貼ると入場券を何枚かくれるので、それを持って映画を見に行くこともありました。

好きだったのは、石原裕次郎さんの映画。映画を見た帰り道は、まるでスターになった気分でした。当時はテレビがなく、映画が全てでした。親は仕事で忙しく、映画館に行くのは子どもや若い人たちでしたね。山中座の資料は、経営していた山中さんから譲り受けたものです。私は表具師なので、薄い番組表などは傷まないように裏打ち(補強)して置いています。今回展示していただけたというだけで、捨てずに保管できて良かったと思います。



## 観音寺市内にあった映画館

芝居小屋がその後映画館に変わるなど、時代の流れとともに変化していきました。文献や関係者からの聞き取りで確認できるもので、市内にはこれまでに16の映画館があったとされます。

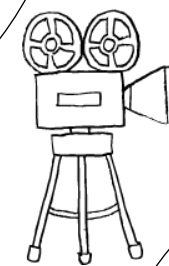
(映画館名と建物があつた地名を記載)



### 観音寺町

- 大正時代～  
 ライオン館 (朝日座) 大和  
 琴弾劇場 (琴弾館) 中洲  
 平和館 上市
- 昭和時代～  
 喜楽館 青柳  
 観音寺東映 (東映メトロ劇場) 青柳  
 新映館 (OS劇場) 七間橋  
 丸美屋映画館 七間橋  
 観音寺劇場 春日

狭いエリアに映画館が密集。観音寺劇場は、市内で唯一建物が現存しています。



- 大正時代～  
 日之出座 (日之出館) 中
- 昭和時代～  
 伊吹映画劇場 西  
 太平館 中

### 伊吹町

現在の伊吹公民館の場所には、「日之出座 (後に日之出館)」という芝居や浪曲、映画が見られる劇場がありました。2階建てで、回り舞台や花道がある立派な施設でした。

### 大野原町

- 昭和時代～  
 文化会館 宮之下  
 山中座 下杉林

農家が多い大野原地域では、農閑期に琴平町などから芝居の巡業が来ていました。舞台は広い納屋の中。その前にむしろを敷き、近所の人が集まって芝居を見物していたそうです。

- 昭和時代～  
 戎座 (豊和館) 本町  
 豊劇 (豊浜劇場) 中之町  
 オリオン館 (銀映) 港町

オリオン館 (後に銀映) は、港町にあった銭湯を改修し、映画館としていました。タイル張りの柱や木の扉が現在も残っています。





1



2

### 観音寺町 新映館 (OS劇場)

観音寺町(七間橋)で2軒の映画館を経営していたのが、家具店を営んでいた細川豊市さんでした。豊市さんの息子さんお二人にお話を聞きました。

**終**戦後、日本や世界のニュース番組だけを流す「ニュース館」を開館しました。木のベンチで、冬は火鉢を置くような簡易な施設でしたが、昭和25年(1950年)に当時は珍しい洋画を専門にした「新映館」という映画館に新装、さらに昭和40年(1965年)に「OS劇場」にリニューアルしました。

また、昭和30年(1955年)に、日活系の邦画を上映する「丸美屋映画館」も近くに開館しました。封切り後、できるだけ早く上映したいので、夜行列車や車で高松までフィルムを取りに行きました。父は月に一度はフィルムの契約などで大

阪に行っていたと思います。洋画専門館は珍しく、東京と同時に封切りのようなこともやりました。周辺地域から、みんな観音寺へ来ていましたよ。

のうちにきちんと掃除をしていました。昔は、市内に映画のロケがよく来ており、今も活躍する俳優さんが舞台あいさつに来ていました。

ので、自由に出入りして友人と映画を見ることができました。60年たった今も、「昔はよく映画館に入れてもらった」と友人に言われます。観音寺町は、大映、東映、松竹、東宝など上映する配給会社が各館で決まっており、映画館をはしごすることもありました。



細川 泰男さん・正雄さん (昭和町)

あそこは仕事が終わって映画を見に行くのがステータスで、学生も試験が終わったら映画館へ。座れないので立ち見席ばかりでした。私たちは実家だった

その後、テレビの普及とともに映画は衰退していき、映画館に来る人は少なくなっていきました。懐かしき、良き時代でした。

### 当時珍しい洋画専門館を開館

私たちも、館内の清掃や映画看板の設置などを手伝っていました。当時は映画を見ながらタバコが吸えたので、火事を防ぐために、床に水を打ってその日

私たちが、館内の清掃や映画看板の設置などを手伝っていました。当時は映画を見ながらタバコが吸えたので、火事を防ぐために、床に水を打ってその日

その後、テレビの普及とともに映画は衰退していき、映画館に来る人は少なくなっていきました。懐かしき、良き時代でした。



3



4



5

1. 新映館の開館当時の様子
2. OS劇場は半地下に映写室や喫茶店があり、2・3階に客席があるという画期的な構造だった
3. 正雄さんが高校生の時の手帳。高校3年間に見た映画のタイトルが丁寧に記録されている。満員になると、映画館が200~300円ほど入った「大入り袋」を関係者に配ってくれたという
4. 新映館の駐輪場。当時は主な交通手段が自転車で、入館時に札と引き換えで預かっていた。上映終了後、観客が一斉に出てくると対応が大わらわだった
5. 時にはちんどん屋が町内を練り歩き、宣伝した  
(細川正雄さん・泰男さん提供)





1. 豊劇正面にあったチケット売り場。窓口に座るのが富子さん（合田富子さん提供）  
2・3. 豊劇の前で。3の写真右側が藤岡博之さん（藤岡恵子さん提供）



## 豊浜町 豊劇 (豊浜劇場)

山中座や豊劇で働いていた合田さんご夫妻。当時の豊浜町内の映画館の様子や映写技師の仕事について、功さんに聞きました。

**昭**和の始めごろ、豊浜駅前には「金城閣」という芝居小屋がありました。火事で焼失。同じくもともと芝居小屋だった「戎座」が、昭和24年（1949年）に「豊和館」と改名して、豊浜町初めての常設映画館になりました。

そして、昭和25年（1950年）に、「オリオン館（後に銀映）」と「豊劇」が開館しました。途中から、銀映と豊劇の2館は普通寺市で映画館（富士見座）をしていた藤岡博之さんが経営していました。

藤岡さんが、豊劇近くの我が家に下宿していたことがきっかけで、私は中学生のころ

## 2人が出会ったのは、映画館

には映画の映し方を自然と覚えていました。当時は映写機操作の検定があり、免許制でした。免許を取って山中座に映写技師として勤め、豊劇でも働いていました。妻（富子さん）は豊劇でチケット売りをしており、そこで出会いました。今という職場恋愛です。

当時の映画は2本立てで、3本立ての日もありました。1本の映画は約1時間30分で、フィ



合田 功さん・富子さん（豊浜町）

ルム1缶で十数分。1本の映画だと10缶くらいあります。三豊郡の映画館でグループを作り、1週間分のフィルムを合同で買って回していました。3本上映の日は、1本上映している間にフィルムをバイクで他の映画館に運んでいました。

一つの映画館に、映写技師が最低2人はいたと思います。全盛期は3人、最後は1人で全部やっていました。

テレビがなかった時代、日曜日には100〜200人が映画館の前に並んでいました。文部省推奨の映画を上映する日は、箕浦や和田の小学校から、子どもたちが先生に引率されて歩いて来てくれていました。近所の紡績会社のために貸し切り興行をすることも。多い時は800人くらい入り、通路に新聞紙を敷いて座ってもらっていました。映画全盛期の思い出です。

伊吹島で最後まで開館していたのが、合田茂信さんが建てた伊吹映画劇場です。茂信さんの息子さんにお話を聞きました。

## 伊吹町 伊吹映画劇場



伊吹映画劇場の正面入口付近（合田一夫さん提供）

**父**は愛媛県の八幡浜近郊で底引き網をしていましたが、その資金を元に、昭和28年（1953年）に島内に映画館「伊吹映画劇場（伊吹映画）」を建設しました。

当時は島内に電気が十分に通っていなかったので、自家発電して、家から映画館まで線を引





いて上映していました。父が映写技師、祖母が売店でラムネやポン煎餅などを販売し、伯母がチケット売り、母がチケット切りと一家総出で運営していました。午後6時から開館するため、早くから準備をするので、子どもたちのころに父と家で一緒に食事した記憶はありません。伯母がチケット販売の合間に面倒を見てくれました。土日やお盆、正月も営業しており、休むのは台風の時くらい。ちなみに、私の名前は、映画俳優の長谷川一夫さんに由来するようです。

## 一家総出で運営した、島の映画館

りに行って行きました。船で観音寺港まで行き、駅まではバイク。荷台にフィルムを積んで、船で伊吹島へ戻ると、母や祖母が港まで迎えに行き、みんなでフィルムを担いで急な坂道を登っていました。

伊吹映劇は2階建てで、2階から映写機で映していました。1階は6人掛けくらいの長椅子を置いて150人ほど、2階は畳敷きで100人ほど座れる広さがありました。昭和30年ごろは島内には4500人くらい住



民がおり、よく満員になっていました。

映画看板は、「琴弾館」の看板絵師だった川上幸生さんに描いてもらっていました。まるで写真みたいになりに描くんです。当時は市内に数軒、看板屋さんがあったと思います。

後に、父は「豊劇」を藤岡さんから引き継ぎ、数年経営していたことがありますが。豊劇の近くにはおいしいお好み焼き屋があり、父と一緒に食べに行くのが楽しみでした。



合田 一夫さん (伊吹町)

1. 伊吹映劇で使用していた映写機のレンズ。思い出として大切に保管していた
2. 伊吹映劇には、関東から浪曲師が興業に来ていた。浪曲師のサインが入った記念の浴衣 (合田一夫さん提供)
3. 琴弾館で映画看板を描く川上さんと描いた絵 (川上幸生さん提供)



壁に庵治石を使用した小ホール

時代が変わっても、映画を見る楽しさは変わらない

ハイスタッフホールでは、平成29年(2017年)の開館当初から定期的に映画上映を行っています。担当者に館内での上映の様子を聞きました。

**水谷** 市の活性化事業も含め、年5回は映画を上映しており、幅広い年齢層の方が来てくださっています。大きな配給会社ではなく、いわゆる単館系の作品を選び上映しています。

**谷** お客様にアンケートを取り、希望調査もしています。これまで小ホールで上映していましたが、新型コロナウイルスの影響で、昨年大ホールを使用しています。

**水谷** 本当は、映画は「密」の中で見た方が盛り上がると思います。面白い場面、大勢いれば、皆でドツと笑えますよね。多くの人と同じ空間で見るのが、映画の楽しさです。

**谷** 終了後に知らない人同士で「この映画良かったね」とか「次のチケット買っていいこう」と話

している光景をよく見かけます。誰かと共有できることは映画館の魅力ですよ。コロナ禍で、お友達と久しぶりに再会し、映画をご覧になる様子を見ると、そういう場所を提供できて良かったと感じます。

**水谷** 映画以外にも、定期的に寄席を開いています。この寄席の名前を「観音寺青柳寄席」としたのは、昔、青柳町(現在の観音寺町)周辺に多くの映画館があり、興業のまちだったと聞いたからです。集こもり需要で、映画館から足が遠のいてい

る方もいると思いますが、大きなスクリーンで見ると、映画の世界の中へ入っていくことができます。ぜひ、その感覚を味わっていただきたいです。

**谷** まだコロナは完全に収束していないので、当面は検温や消毒、マスク着用などに協力いただきますが、皆さんに喜んでいただけるように運営していますので、ご来場をお待ちしています。



ハイスタッフホール

水谷 正裕 顧問  
谷 明子 館長

ハイスタッフホールのイベントスケジュールは27ページをご覧ください。